
雨とアスファルトと彼女の怖い眼

曇底コオロギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨とアスファルトと彼女の恐い眼

【Nコード】

N5725A

【作者名】

曇底コオロギ

【あらすじ】

だって屋根の在る部屋じゃあロマンスはおきねーからなあ。雨が好き。青春なんて凄く苦い。

傘と二人と灰色の景色。

そんなもん、きっかけだ。

朱色の顔はいつだって理解し合おうとしなくちゃいけない。

「なあ志賀さん」

雨が降っている。

彼女は笑っている。

「…俺と一緒にいいの？」

しとしと降っている。

「良いよ。恥ずかしいけど。染枝君は、大丈夫？」

風が少し吹いて、色んな物を揺らした。

たとえばセミロングの髪だとか、短いスカートとか。

「オレは全然良いよ！むしろ歓迎してるけど、やっぱ、恥ずかしいな」

志賀は笑った。

染枝だって笑った。

全く、雨だつてのに楽しそう。

「…男の子と相合い傘なんて、わたし初めてで緊張する」

「ははっは」

染枝だって初めてだった。

笑うしかねー。

水たまりを、軽く飛び越える志賀。

「わたし達って、家とか近いのにあんまり仲良くないよね」

志賀の顔色。

「志賀ん家って、俺ん家に近いの？」

少しだけ赤くなって、そっけなく。

「近いんだよ」

雨とアスファルトと彼女の恐い眼！！

「そっか」

「そうだよ」

二人の目線はまだ交わらない。

しばらく、二人は景色に溶け込み。唐突に

晴れた。

「あっ！晴れたよ！」

「すげー晴れたな。」

ホントすげー晴れた。快晴。

染枝は少し寂しそう。

春の陽射しが、優しく世界を焼いていく。

傘を畳む

「染枝君」

志賀はしっかりと見つめている。

「どした？」

初めて目が合う。

ほんの数瞬。

滋賀は少し笑っている。

「メシおごって」

「はあ！？」

晴れている。

春である。

おまけに風吹いて揺れる髪である。

滋賀は少しマジになって。

「メシおごって」

「2回め!？」

春の日の二人の笑顔だって
きっかけに過ぎない。

（後書き）

抱きしめてからじゃあ、わからなくなっちゃまうからよお。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5725a/>

雨とアスファルトと彼女の怖い眼

2010年12月30日22時35分発行